

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	6 教育内容・方法・成果（研究科）《全学的な視点》	
中項目	6.2 教育課程・教育内容	
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ（学部） コースワークとリサーチワークのバランス（院）	
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供（学部） 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容（学部） 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（院） 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供（専院）	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. コースワークとリサーチワークのバランスをとり体系的なカリキュラムを編成する。	→カリキュラムの編成を検証するための委員会の開催	C	C	/	/	/
2. 国際的な学会・研究雑誌等で研究成果を発表する優れた若手研究者を輩出するための教育システムを確立する。	→国際的な学会での発表件数及び研究雑誌への掲載数、海外への留学生数	C	B	/	/	/
3. 文理融合型の研究科横断的な枠組みを設定する。	→文理融合型の研究科横断的な枠組み設定を行うための委員会の開催	C	B	/	/	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし	/	/	/	/	/
なし	→なし	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (方針) 本学大学院においては、その目的である専門の学科の教授研究、深広な学識と研究能力とさらに進んで研究指導能力の涵養、高度の専門的職業における深い学識及び卓越した能力の修得を実現するためには、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成し、各課程に相応しい教育内容を提供して行かなければならない。 (現状説明) 各研究科においては、学位取得プロセスを学生に明示しており、リサーチワークについては体系的に行われている。また、専門職大学院においては修了要件が明示されており、コースワークも順次性があるものといえる。 優れた若手研究者を輩出するための仕組みづくりとして、2011年度より大学院海外研究助成金制度を構築した。それに先立って、2010年度の教務学生委員会で大学院学生・大学院研究員の海外での研究活動実態調査を実施し、大学院生の海外での研究活動の実態把握を行った。
	小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (現状説明) 大学院教務学生委員会において文理融合型の研究科横断的な枠組みを検討する委員会の設置が認められた。それを受け、2010年度に検討のためのWGが設置され、協議の結果を答申として取りまとめた。
	その他	

《評価指標データ》

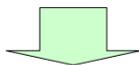
MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
☆小項目6.2.2	文理融合型の研究科横断的な枠組みの設定に向けて、副学長をコンビーナとするワーキンググループが設置され、2010年度中に6回にわたる会議が行われた。左記WGの話し合いの結果、2013年度の本格的実施に向け、研究科間での共通科目の実施、大学院共通科目の実施などを段階的に行っていくことが答申された。
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
☆小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
☆小項目6.2.2	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
☆小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

☆その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○「現状の説明」6.2.1で、大学院生の海外での研究活動の実態把握を行なった」ということですが、調査結果は出ているのでしょうか。「効果が上がっている事項」として評価はできないのでしょうか。「目標」2の進捗評価がBに向上していますので、根拠の提示が望まれます。

【学内委員】

○目標1について「現状の説明」では特に解決すべき課題があるとは読み取れませんが、進捗評価がCなのはなぜですか。もし課題があるのなら説明をお願いします。

○文理融合型の研究科横断的な枠組みとはどのようなものでしょうか。

○学位取得プロセスは有るものの、カリキュラムツリー、カリキュラムマップといった内容のものが無いのではと推定されますが、それを整える必要があると思われま。

○小項目6.2.1の現状説明「優れた若手研究者を輩出するための仕組みづくりとして、2011年度より大学院海外研究助成金制度を構築した。それに先立って、2010年度の教務学生委員会で大学院学生・大学院研究員の海外での研究活動実態調査を実施し、大学院生の海外での研究活動の実態把握を行った。」は「8 学生支援」での内容ではないでしょうか。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・目標1. の進捗評価は「C」となっています。一方、《小項目ごとの現状説明》の小項目6.2.1の現状説明内容と整合性が取れた評価になっているのでしょうか。また、HPでの公表も十全なものか今一度精査をお願いします。

・自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、もう少し詳しく現状説明されることを希望します。

・小項目6.2.1の現状説明では内容がつかめません。もう少し説明をお願いします。

・小項目6.2.2の現状説明では小項目で問われていることに十分応えていません。もう少し説明をお願いします。

・改善すべき事項はないのでしょうか。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性

・学生の順次的・体系的な履修への配慮

・各学位課程の固有の課題に応える措置（例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など）

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

追加記載なし。

☆